

現在の赤崎海岸



津 奈 木

前々から

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111(代)
印刷所 旭 印 刷
電話(水俣) 64101番

その後、数百年をへて、三十代敏達天皇御宇、日羅將軍が船着けされたと伝えられる旧赤崎小学校跡地東にタゲク塚があり今もなお現存する。

日本書記に、韋母田(きれいなガタ浜)の辺に船を付けられた日羅公の子、穴目公は百済人徳爾、余奴の首を此の地で切られたと記

私のふるさと 赤崎海岸の昔と今

佐々木 緑

二十数キロメートルの海辺をもつ、我が津奈木町のほぼ中央に赤崎の浦がある。

津奈木町(岩城、津奈木)地区には原始社会、弥生時代の古人が在住していたことは浜崎の貝塚で実証されるが、当赤崎に何時の時代から人が住み付いたかは定かでない。

ある古老の口伝によれば、西暦四〇〇年頃大和朝廷十二代景行天皇が、不知火海を見聞された時、

「此の里の名は」と聞かれ、案内人は古木の梢えに止まる、赤色に見えるサギを見て、

「赤サギの里にございます」と言ったとか？

地形から見て当時の赤崎の海岸は、現日添、村上宇と赤崎字の境、日当、土免宇と脇川宇の境界あたりが海辺であつたろうと推測される。

その後、数百年をへて、三十代敏達天皇御宇、日羅將軍が船着けされたと伝えられる旧赤崎小学校跡地東にタゲク塚があり今もなお現存する。

日本書記に、韋母田(きれいなガタ浜)の辺に船を付けられた日羅公の子、穴目公は百済人徳爾、余奴の首を此の地で切られたと記

景行天皇より敏達天皇まで約二百年ばかりの間、八十米ばかり、土石流や人々の埋立により、西に浜辺が変せんしたと思われる。その後もう少しづつ埋立てられ、大正十一年頃迄タゲク塚より百米ばかり西下し、現福浜岩城道赤崎中央部分西側二十米附近が海辺となった。

その間(明治年間には西上げ「西風」の台風による大波の被害を受け、村人は波止の建設に力をそそいだ。総工費七千五百円)を要したと言ふ。

大正末期より昭和初期にかけて約八十米程が埋立てられ数戸の家が建ち、現在の日添波止、日当コンクリ波止が昭和十年頃までに完成した。

現海岸は今もなお存続している。

しかし、旧波止より約百五十米程西沖に新波止が構築されつつあり旧波止内は埋立てられる予定だそうであり時代の進歩と共に海岸の変せんが急ピッチで進むのもいぬない事実と言えよう。

娘が急病ということで、妻が家事代行人として急遽上京することになった。所謂、私は代行人の代行となつたわけである。洗濯機の使い方から乾燥機・電子レンジ等々と、何気ない毎日の生活に、こんなに電気器具を使っているのかと、感心しながら特訓を受けた。

食事の方は、長いこと食べたり、見てきたのだから、何とか出来ると思ひ、外で一人ではそぼそと食事するより、我が家でのんびりと食べる方がよいと、板前・客・見習いの流し場係と一人三役をこなすことにした。さて、代行一日目は昨夜作つて置いてあるのを、レンジで温めた。よくいうチンするやつである。二分してみたが少し不足だ。いわれた通り次は一分してみろ。これは便利なものだ。始めのうちは、面白くもあり、楽しみでもあったが、だんだんおっくうになってきた。でも食べぬわけにはいかないし、心を奮いたたせて残された場合を想定して、家庭内の生活技術を身につけておくことが大きな課題であらう。三週間して私は代行の役を免ぜられ、一息ついたのである。

一言

平成三年度 社会教育 団体役員紹介

皆様の御指導をお願いいたします

津奈木町 連合青年団

団 長 本山 真吾
副団 長 川野 裕司
副団 長 竹本 昌広
副団 長 永松 伸也
事務局長 荒川 隆広
顧問 新立 啓介

婦 人 会

津奈木校区

会 長 千々岩順子
副会 長 齊藤 道子
副会 長 西川 京子
会 計 白坂 寿子
生 協 沢井ミズエ
生 協 松田ハツエ
書 記 竹本カチ子

赤崎校区

会 長 森山サツキ
副会 長 岩崎美津子
会 計 藤原 秀代
平 国 校 区
会 長 上村サミ子
副会 長 村上 国子

津奈木町 PTA 連絡協議会

会 計 野崎 久子
書 記 伊藤 信子

津奈木中学校

会 長 上村 正雄
副会 長 濱田真千夫
副会 長 佐々木満雄
副会 長 石田ミサ子
副会 長 元村 久美
会 計 荒川美津子
書 記 鶴野 尚子
顧 問 山本 茂夫
顧 問 山本 嵩
監 事 中山 己熊
監 事 上原 良一

津奈木小学校

会 長 森下 博明

津奈木町 文化協会

会 長 六車 孝吉
副会 長 山下 和
理 事 長 山下 茂
副理 事 長 齊藤 道子
事務 局 長 竹本 茂人
監 事 上原 憲賢
監 事 浦口美代子

17年ぶりの優勝 (水俣市・芦北郡陸上競技大会)

去る六月九日(日)第20回水俣市・芦北郡各町対抗陸上競技大会が津奈木町総合グラウンドにおいて開催されました。

本大会は、四年に一巡の地元開催であり例年より早目に選手招集と結団式を行い関係者一同上位を目指し取りくんできた。

当日は、梅雨期間中で雨の心配があつたが、絶好のスポーツ日和に恵まれて、本町の千々岩三四子さんの力強い選手宣誓で大会が開幕された。

大会は、グラウンドが水俣・芦北地区で唯一の四〇〇メートルトラ



倉野・倉本さん

清和村文楽人形芝居 がやってくる

開催日 平成3年8月17日(出)
開 場 13:30
開 演 14:30
開催場所 津奈木共同福祉施設
内 容 ●清和村文楽人形芝居上演
演題 「傾城阿波の鳴門巡礼歌の段」
●津奈木町の郷土芸能上演
「舞鶴太鼓」
「豊年踊り」
「棒踊り」
入場料 無料(入場整理券発行)
主 催 津奈木町教育委員会
清和村文楽人形芝居
津奈木公演実行委員会
司会・進行 県立劇場館長 鈴木 健二



宮嶋・福田さん

海の旬間「ウインド」
サーフィン大会開催
中・高校生を対象にウインド・サーフィン大会を左記のとおり実施しますので、中・高校生は集合。

記
一、期日 七月二十七日(日)
午後二時
二、場所 B&G艇庫

